

維持管理要領書

対象機種

固液分離型流量調整付
担体流動生物ろ過循環方式

ダイエー浄化槽 FCS 型
(FCS14,20,21,25,30 型)

この度は、ダイエー浄化槽 FCS 型をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この「維持管理要領書」をよくお読みになり、正しい維持管理をおこなってください。

目次

| | |
|--------------------|----|
| 1. 維持管理および法定検査について | 1 |
| 2. 保守点検について | 2 |
| 3. 清掃について | 16 |
| 4. アフターサービスについて | 17 |
| <参考> | |
| 使用開始直前保守点検チェックリスト | 19 |
| 保守点検記録表 | 21 |
| 清掃記録表 | 22 |
| 仕様・寸法表 | 23 |



注意

維持管理要領書内の警告および注意表示のある箇所を浄化槽の維持管理を行う前に注意深くお読みになり、よく理解してください。

平成20年3月

DAIE 大栄産業株式会社

⚠ 警告

次の警告事項を守らないと事故が生じた場合は、維持管理をした人の責任を問われるおそれがあります。

⚠ 警告 ... (1) 消毒剤による発火、爆発、有害ガス事故防止

消毒剤は強力な酸化剤です。

消毒剤には、有機系の塩素剤と無機系の塩素剤の2種類があります。

これらを一緒に薬剤受け(薬筒)入れないでください。

留意:有機(イソシアヌル酸)系の塩素剤には、商品名:ハイライト、ボンシロール、メルサン、マスター、ペーシリッチ等があります。

無機系の塩素剤には、商品名:ハイクロン、トヨクロン、南海クリヤー等があります。

消毒剤を取り扱う際には、目・鼻・皮膚を保護するため、ゴム手袋、防塵マスク、保護メガネ等の保護具を必ず着用してください。

消毒剤を廃棄する場合は、販売店等にお問い合わせください。

発熱・火災の危険がありますので、消毒剤はゴミ箱やゴミ捨て場に絶対に捨てないでください。

留意:消毒剤の取り扱い上の詳細な注意事項は、現品の包装材に記載されていますので、そちらの方をよくお読みください。

これらの注意を怠ると発火・爆発・有害ガスの生じるおそれがあり、またこれらにより傷害を生じるおそれがあります。

⚠ 警告 ... (2) 作業中の酸欠などの事故防止

槽内に入る場合は、必ず槽内の酸素濃度・硫化水素濃度を測定し、その安全性を確かめてください。

また、槽内で作業をするときは必ず強制換気をおこなってください。

このような注意を怠ると、人身事故(死亡事故)の発生するおそれがあります。

⚠ 警告 ... (3) 感電・発火、巻き込まれ事故防止

送風機・制御盤の近く(50cm以内)には、ものを置かないでください。

電源コードの上には、ものを置かないでください。

この注意を怠ると、感電・発火の生じるおそれがあります。

送風機の点検後、外したカバーは必ず取り付けてください。

カバーを取り付けないと、巻き込まれ事故のおそれがあります。

⚠ 警告 ... (4) マンホール・点検口等からの転落・傷害事故防止

作業終了後、マンホール・点検口のフタは、必ず閉めてください。

また、ロック機構のあるものは、必ずロックしてください。

マンホール・点検口等のフタのひび割れ・破損等異常を発見したら、直ちに取り替えてください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害の生じるおそれがあります。

留意事項

留意 コンセント火災事故防止のため、次のことをおこなってください。

電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、**がたつき**のないように刃の根本まで確実に差し込んでください。

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合には、**感電**や**火災**の生じるおそれがあります。

留意 作業終了後、次の事項をおこなってください。

ア) マンホール・点検口のフタは必ず閉めてください。

イ) 電源は入れてください。

ウ) 送風機・制御盤の近く(50cm以内)にもものは置かないでください。

留意 マンホール・点検口の枠およびフタが鋳物または鋼製の場合には、定期的に錆を除去してエポタール塗装してください。

留意 保守点検の技術上の基準・清掃の技術上の基準等の諸法令およびメーカーの維持管理要領書を確実に守って維持管理をしてください。

留意 浄化槽に入れる消毒剤は、浄化槽を使用開始するまでは開封しないでください。

この注意を怠ると、金属類の腐食を生じるおそれがあります。

1. 維持管理および法定検査について

浄化槽法および浄化槽法に基づく政省令では、次のことが定められています。

1 - 1. 管理者の義務

- (1) 使用開始の報告
- (2) 使用開始直前の保守点検
- (3) 使用開始後は、環境省令で定める回数の保守点検、清掃の他、使用に関する準則の遵守
- (4) 使用開始後3ヶ月を経過した時点から5ヶ月以内におこなう法定検査
- (5) 毎年1回の法定検査
- (6) 保守点検、清掃の記録の保存(3年間)

なお、通常の場合、保守点検や清掃を管理者自らがおこなうことが出来ない場合は、浄化槽法に定められている保守点検業者(または浄化槽管理士)や浄化槽清掃業者に委託することができるようになっています。

1 - 2. 保守点検業者の義務

- (1) 保守点検を委託できる者は、法の定めるところにより、浄化槽管理士あるいは都道府県知事の登録を受けた保守点検業者でなければなりません。
- (2) 浄化槽の保守点検は、浄化槽の保守点検の技術上の基準に従っておこなわなければなりません。

1 - 3. 保守点検の時期および回数

最初の保守点検は、浄化槽使用開始の直前におこない、それ以降は下表に従い行ってください。

| 型式 | 保守点検回数 |
|---------------|----------|
| FCS14, 20 | 4ヶ月に1回以上 |
| FCS21, 25, 30 | 3ヶ月に1回以上 |

1 - 4. 清掃業者の義務

- (1) 清掃を受託できる者は、法の定めるところにより、当該業をおこなおうとする区域を管轄する市町村の許可を受けた清掃業者でなければなりません。
- (2) 浄化槽の清掃は、浄化槽の清掃の技術上の基準に従っておこなわなければなりません。

1 - 5. 清掃の回数

清掃の回数は、環境省令の定めるところにより、通常の使用状態においては、毎年1回はおこなうことになっています。

1 - 6. 保守点検および清掃の記録の保存

浄化槽管理者は、保守点検、清掃の記録を作成し、3年間保存しなければなりません。ただし、この業務を委託した場合は、委託を受けた者が記録を二部作成し、一部を浄化槽管理者に交付し、一部を自ら保存しなければならないことになっています。

1 - 7. 法定検査

- (1) 浄化槽法第7条に基づき浄化槽使用開始後3ヶ月を経過した時点から5ヶ月以内に都道府県知事の指定する検査機関(指定検査機関)の水質等の検査を受けなければならない。
- (2) 浄化槽法第11条に基づき毎年1回、指定検査機関の水質等の検査を受けなければならない。

2. 保守点検について

2 - 1. 使用前の点検確認と調整

通常の保守点検をおこなう前に、使用開始直前に浄化槽の製造、施工、内部稼働装置の機能等を点検確認することは、浄化槽の正常な運転のためにも、また保守点検・清掃作業に支障を生じさせないためにも極めて重要です。

浄化槽の設置状況の確認

(1) 実施設と届出書類の照合

設置された浄化槽と届出された浄化槽が同一であることを申請書類等で照合確認してください。

(2) 浄化槽周辺状況の確認

本体、ブロワ等が設置されている場所を観察し、保守点検および清掃作業に支障がないかを確認してください。

浄化槽のマンホール等より雨水の流入のおそれがないかを確認してください。

浄化槽上部の利用状況について観察してください。特に上部が駐車場になっている場合は車輛用仕様になっているか設計図書等で確認してください。

住宅の場合、風呂排水、台所排水が接続されていることを確認してください。

また、雨水配管が接続されていないことを確認してください。

(3) 浄化槽内部の確認

マンホールを開け、保守点検・清掃作業が容易かつ安全におこなえるかを確認してください。

槽が水平に施工されているか確認し、各槽の水位関係、流入管底、放流管底等が正常かを確認してください。

目視により槽内壁、仕切板、各配管、その他の内部設備に破損等がないかを確認してください。

配管途中に空気漏れがないか、散気と逆洗の配管接続が逆になっていないか確認してください。

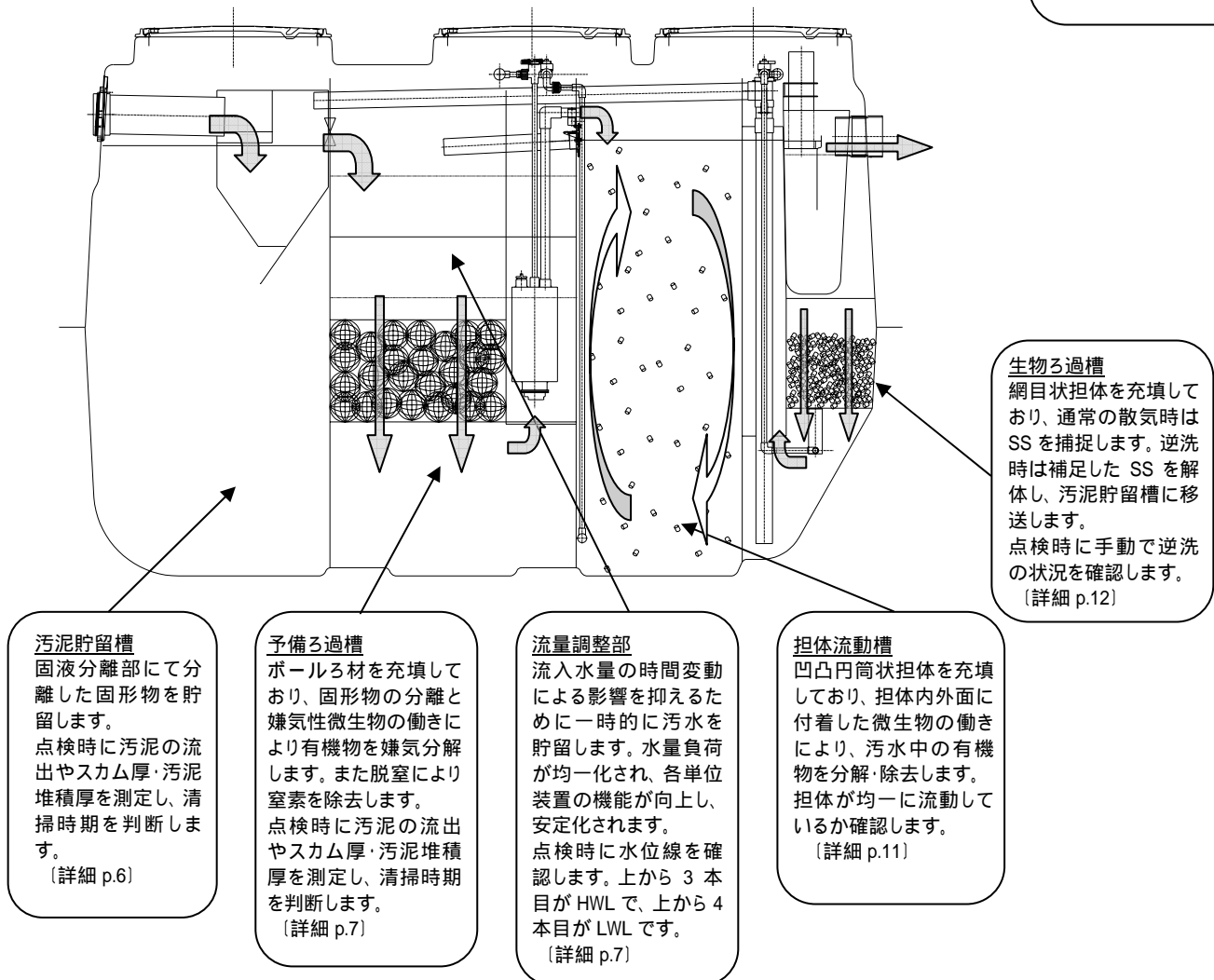
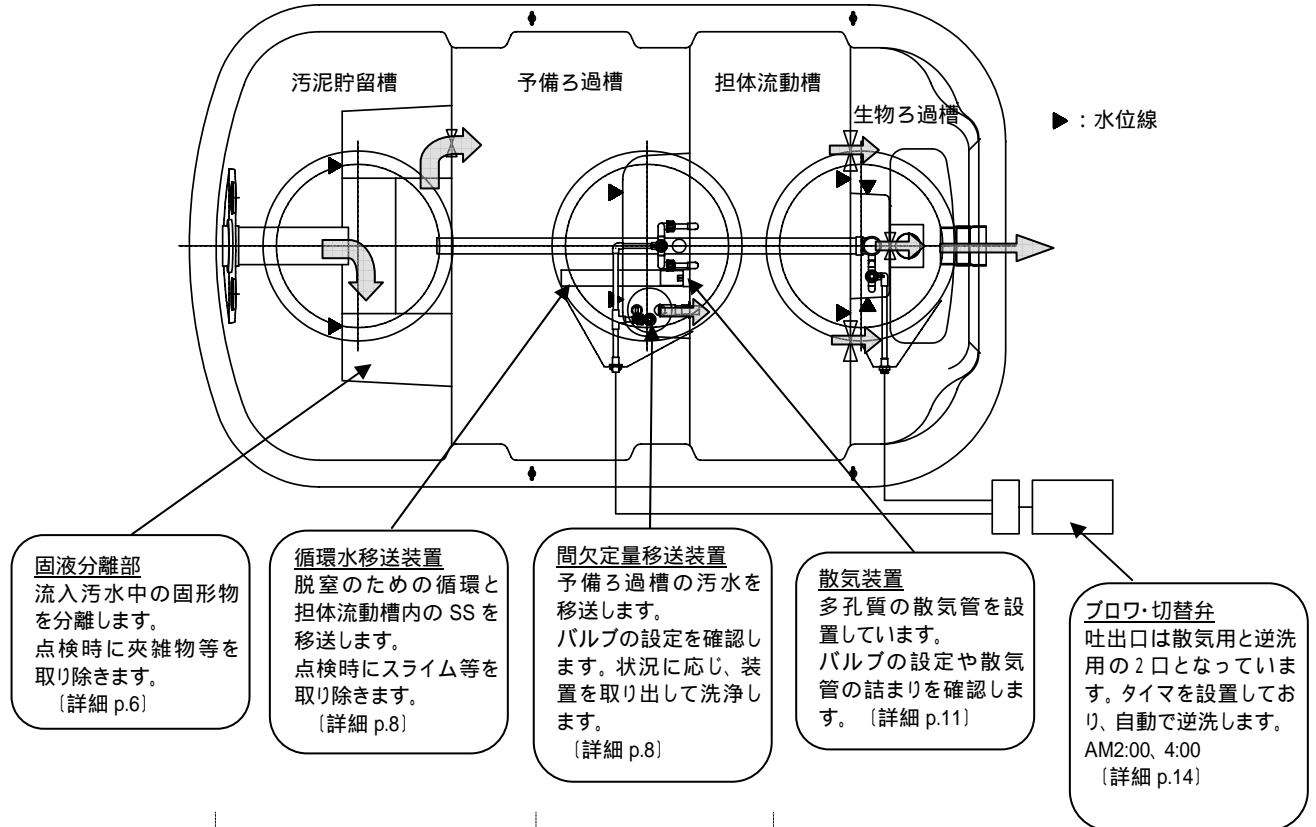
通常の運転では、間欠定量移送装置によりある一定のサイクルで揚水され、また循環水移送装置により常時循環されています。正常であるかどうか、移送サイクル時間と循環水量を確認(p.8-9 参照)してください。

担体流動槽の流動担体は、水張り直後は水に馴染んでいないため浮上していますが、汚水が流入してから1週間程度で流動するので問題ありません。

2 - 2 . 特徴と保守点検のポイント

処理方式: 固液分離型流量調整付担体流動生物ろ過循環方式

処理性能: 放流水 BOD: 20mg/L 以下、SS: 20mg/L 以下、T-N: 20mg/L 以下



2 - 3 . 必要な器具および点検項目

必要な器具・機材を表2 - 1、主な点検項目を表2 - 2に示します。必要な機材は保守点検の前にあらかじめ用意しておいてください。

表2 - 1 必要な器具・機材

| 必要な器具・機材 | 必要箇所 | 用途 |
|------------------------------|---|---|
| ひしゃく | ・汚泥貯留槽 ・予備ろ過槽 ・担体流動槽 ・生物ろ過槽 ・移流管兼清掃口 | ・スカムの除去 ・採水 |
| ブラシ | ・流入管、放流管 ・汚泥貯留槽 ・予備ろ過槽 ・担体流動槽 ・生物ろ過槽 ・間欠定量移送装置 ・循環水移送装置 | ・スライムの除去 ・槽内、移流口、オーバーフロー口、間欠定量移送装置、循環水移送装置等の洗浄 |
| 計量カップ (0.5L、1L) | ・固液分離部 ・担体流動槽 | ・逆洗水量の測定 ・流動担体充填量の確認 |
| 計量シリンダー (1L、2L) | ・循環水移送装置 | ・循環水量の測定 |
| 汚泥堆積厚測定用具 または透明管 | ・汚泥貯留槽 ・予備ろ過槽 ・生物ろ過槽 | ・汚泥堆積厚およびスカム厚の測定 (清掃時期の判断) ・予備ろ過槽内のろ材の閉塞解消 透明管は 25 以上、長さ 2.5m 程度が良い |
| スカム破碎用具 | ・汚泥貯留槽 ・予備ろ過槽 | ・スカムの破碎 |
| 水温計 | ・担体流動槽 | ・水温の測定 |
| DO 計 | ・生物ろ過槽上部移流口 | ・DO の測定 |
| 透視度計 | ・移流管兼清掃口 | ・透視度の測定 |
| pH 計 | ・移流管兼清掃口 | ・pH の測定 |
| 簡易測定器(アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素) | ・移流管兼清掃口 | ・アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素の測定 |
| 残留塩素計 | ・放流水 | ・残留塩素の測定 |
| 時計 またはストップウォッチ | ・間欠定量移送装置 ・循環水移送装置 ・ブロワ | ・移送サイクル時間の測定 ・循環水量の測定 ・現在時刻、タイマの確認 |
| 工具 | ・流動担体流出防止ネット ・ブロワ | ・流動担体流出防止ネットの取り外し ・ブロワの修理等 |
| 保守点検記録表 | | |

表2 - 2 主な点検項目

| 点検部位 | | 点検項目 | 頻度 |
|----------|---------|---|-------|
| 流入管渠 | | ・点検升のフタの密閉状況 ・滞水や漏水、異物等の堆積または付着していないか | 保守点検毎 |
| 放流管渠 | | ・滞水や漏水、異物等の堆積または付着していないか | 保守点検毎 |
| 汚泥貯留槽 | 固液分離部 | ・異物等の堆積または付着していないか ・異常な水位の上昇はないか ・スカムによる2階タンクの変形はないか ・蚊・蠅等が異常発生していないか | 保守点検毎 |
| | 汚泥濃縮貯留部 | ・異物等の堆積または付着していないか ・異常な水位の上昇はないか ・スカムの生成状況 ・堆積汚泥の生成状況 ・蚊・蠅等が異常発生していないか | 保守点検毎 |
| 予備ろ過槽 | 流量調整部 | ・異物等の堆積または付着していないか ・異常な水位の上昇はないか ・スカムによる移流管兼清掃口の変形はないか ・蚊・蠅等が異常発生していないか | 保守点検毎 |
| | 予備ろ過部 | ・ろ材の閉塞はないか ・スカムの生成状況 ・堆積汚泥の生成状況 | 保守点検毎 |
| 間欠定量移送装置 | | ・移送サイクル時間の測定(常に揚水があるか) ・配管内に生物膜等が多量に付着していないか ・多量の汚泥が流出していないか | 保守点検毎 |
| 循環水移送装置 | | ・循環水量の測定(常に循環しているか) ・配管内に生物膜等が多量に付着していないか | 保守点検毎 |
| 担体流動槽 | | ・異常な水位の上昇 ・移流口の閉塞確認 ・ばっ気攪拌状況 ・水温の測定 ・DOの測定 ・発泡状況 | 保守点検毎 |
| 生物ろ過槽 | | ・異常な水位の上昇 ・スカムの生成状況 ・堆積汚泥の生成状況 ・逆洗時のばっ気攪拌状況(ろ過担体の閉塞はないか) ・汚泥移送水量の測定 | 保守点検毎 |
| 移流管兼清掃口 | | ・異常な水位の上昇 ・流動担体、ろ過担体が流出していないか ・スカムの生成状況 ・透視度の測定 ・pHの測定 ・アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素の測定 ・堆積汚泥の生成状況 | 保守点検毎 |
| 消毒槽 | | ・処理水との接触状況 ・沈殿物の生成状況 ・残留塩素の測定 | 保守点検毎 |
| ブロワ | | ・稼働状況 ・タイマの設定状況 ・エアフィルターの洗浄 | 保守点検毎 |

2 - 4 . 点検方法と保守作業

各槽での点検項目と異常な状態の目安および対策は以下の通りです。

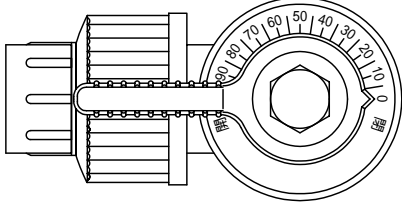
(1) 汚泥貯留槽

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 |
|------------------|------------------------------|---|--|
| 流入部・固液分離部・流出部の点検 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 汚物が著しく蓄積している。 汚泥が著しく流出している。 | <ul style="list-style-type: none"> 堆積汚泥の状況を確認し、必要であれば清掃する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 固液分離部が閉塞している。 | <ul style="list-style-type: none"> 異物をひしゃく等ですくい、汚泥濃縮貯留部へ移す。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 流入導入管にトイレトペーパー等が付着して流入導入管が閉塞している。 | <ul style="list-style-type: none"> ブラシ等で洗い流す。 この状況が頻繁に起きる現場、トイレトペーパーを多量に使用している、あるいは使用水量が少ないために起こる。使用者に説明し、トイレトペーパーの使用量を少なくしてもらおうように願います。 |
| 臭気 | 嗅覚 | <ul style="list-style-type: none"> マンホールを閉じた状態で著しい臭気がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 流入系統の配管を確認する。 立ち上がっていない場合は脱臭剤やシーディング剤を添加する。 使用条件(使用水量、異物の流入等)を確認し、異常があれば使用者に改善を促す。 応急対策としてマンホール枠にパッキンを貼り付ける。 臭突管を設置する。 |
| スカムの状況 | 目視およびスカム厚測定用具、汚泥堆積厚測定用具の差し込み | <ul style="list-style-type: none"> スカムが水面上 150mm 以上(固液分離部へ越流している)、または水面下 350mm 以上ある。 | <ul style="list-style-type: none"> 清掃する。 |
| 堆積汚泥の状況 | | <ul style="list-style-type: none"> 濃度の高い汚泥が水面下 500mm まで堆積している。 | <ul style="list-style-type: none"> 清掃する。 水面下 600mm まで汚泥が堆積している場合は次の保守点検までに清掃すると良い。 |
| 異物の流入 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 衛生用品や紙おむつ等が存在する。 | <ul style="list-style-type: none"> 使用者に異物を流さないように注意する。 |
| 油脂の流入 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 油脂が多量に浮いている。 槽内水が白濁している。 | <ul style="list-style-type: none"> 使用者に油脂類を多量に流していないか確認し、多量に流している場合は使用者に改善を促す。 |
| 蚊や蠅の発生状況 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 著しく発生している。 | <ul style="list-style-type: none"> プレート式殺虫剤やスプレー式殺虫剤で駆除する。 |

(2) 予備ろ過槽

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 |
|----------|---------------------|--|--|
| スカムの状況 | 目視およびスカム厚測定用具の差し込み | <ul style="list-style-type: none"> ろ材上部にスカムが水面上 70mm 以上 (HWL 時に循環水移送装置下端まで) がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 清掃する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 移流管兼清掃口内に多量のスカムがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 移流管兼清掃口内のスカムをひしゃく等ですくい、汚泥濃縮貯留部へ移す。堆積汚泥の状況を確認し、必要であれば清掃する。 |
| 堆積汚泥の状況 | 目視および汚泥堆積厚測定用具の差し込み | <ul style="list-style-type: none"> 間欠定量移送装置の吐出口から汚泥が多量に流出している。 | <ul style="list-style-type: none"> 堆積汚泥の状況を確認し、必要であれば清掃する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 移流管兼清掃口内に濃度の高い汚泥が底部より 550mm 以上堆積している。 | <ul style="list-style-type: none"> 清掃する。 |
| ろ材の閉塞 | 目視 流量調整部、移流管兼清掃口 | <ul style="list-style-type: none"> 予備ろ過部の水位が移流管兼清掃口内水位よりも高い。 ろ材上に多量の固形物が堆積している。 | <ul style="list-style-type: none"> 棒や汚泥堆積厚測定用具等を予備ろ過部に差し込み、ろ材上またはろ材内に堆積した固形物をろ材下に落とす。 改善されない場合は清掃する。 |
| 水位の上昇 | 水準目安線から水位までの距離を確認 | <p>< 汚水が流入していない時 ></p> <ul style="list-style-type: none"> HWL から 50mm を超えている。 循環水移送装置が水没している。 <p>< 汚水が流入している時 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 予備ろ過槽の水がオーバーフロー口より担体流動槽へオーバーフローしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 間欠定量移送装置 (p.8)、循環水移送装置 (p.9)、担体流動槽 (p.11)、生物ろ過槽 (p.12) の点検をおこなう。 |
| 油脂の流入 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 油脂が多量に浮いている。 槽内水が白濁している。 | <ul style="list-style-type: none"> 使用者に油脂類を多量に流していないか確認し、多量に流している場合は使用者に改善を促す。 |
| 蚊や蠅の発生状況 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 著しく発生している。 | <ul style="list-style-type: none"> プレート式殺虫剤やスプレー式殺虫剤で駆除する。 |

(3) 移送装置

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|---|-------------------|-------------------|----------|----|---------------------|----|-----|-----|-----|-----------------|---|-------------------|-------------------|-------------------|--|
| 間欠定量移送装置 | 移送用バルブの設定の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 各人槽の設定に合っていない。 <table border="1"> <tr> <td>人槽</td> <td>14</td> <td>20 21</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>開度</td> <td>45%</td> <td>65%</td> <td>75%</td> <td>85%</td> </tr> </table> | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | 開度 | 45% | 65% | 75% | 85% | <ul style="list-style-type: none"> 移送用バルブを各人槽の設定に合わせる。  <p>図 移送用バルブ</p> | | | | |
| | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | | | | | | | | | | | | |
| | 開度 | 45% | 65% | 75% | 85% | | | | | | | | | | | | |
| 稼働状況の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 間欠定量移送装置のまわりからエアが上がっている。 1 サイクルのうち、終わりの数秒間だけ勢いよく吐出される。 【正常な状態】 1 サイクルのうち、おおむねの時間で移送水が吐出されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 逆止弁部または清掃口部のネジの締め込みをおこなう。 逆止弁をブラシ等で洗浄する。 洗浄後、装置内に水を入れ弁部の漏水を確認する。密閉性に問題がある場合は、弁部の交換をおこなう。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 移送サイクル時間を測定 | <ul style="list-style-type: none"> 移送サイクル時間が下表より極端に長い、または短い。 <p>表 移送水量</p> <table border="1"> <tr> <td>人槽</td> <td>14</td> <td>20 21</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>サイクル時間 [秒/cycle]</td> <td>28</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>移送水量 [L/min]</td> <td>7.8 ~ 8.8</td> <td>11.1 ~ 13.1</td> <td>13.9 ~ 15.6</td> <td>16.7 ~ 18.8</td> </tr> </table> <p>設計値: 1 日当たりの移送水量が日平均汚水量の 4.0 ~ 4.5 倍。</p> | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | サイクル時間 [秒/cycle] | 28 | 18 | 16 | 11 | 移送水量 [L/min] | 7.8 ~ 8.8 | 11.1 ~ 13.1 | 13.9 ~ 15.6 | 16.7 ~ 18.8 | <ul style="list-style-type: none"> 移送用バルブで微調整をする。 |
| 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| サイクル時間 [秒/cycle] | 28 | 18 | 16 | 11 | | | | | | | | | | | | | |
| 移送水量 [L/min] | 7.8 ~ 8.8 | 11.1 ~ 13.1 | 13.9 ~ 15.6 | 16.7 ~ 18.8 | | | | | | | | | | | | | |

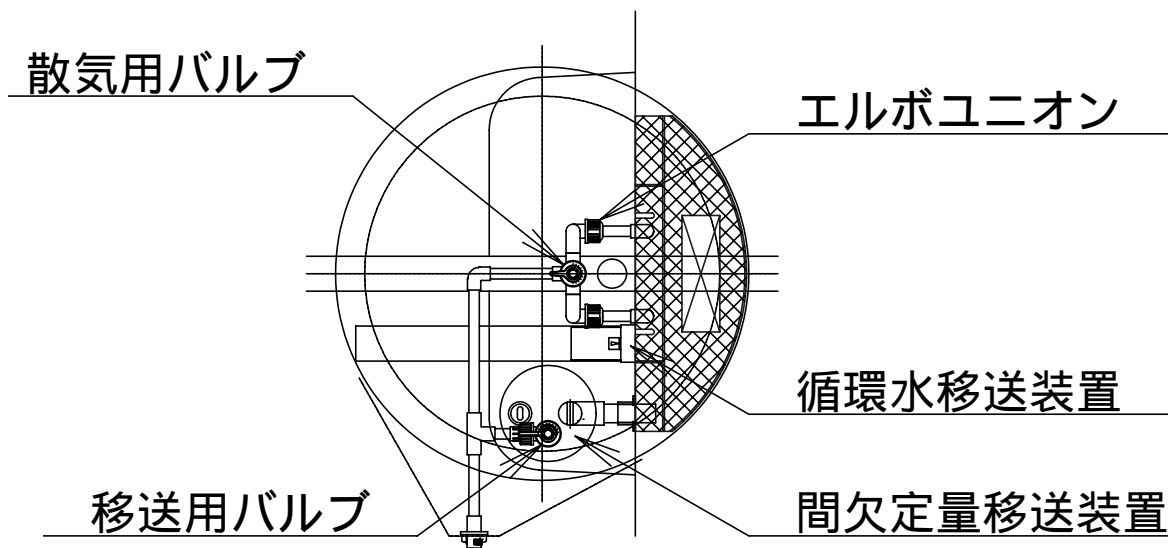
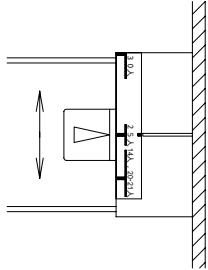


図 間欠定量移送装置・循環水移送装置配置図

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|--|-----------------|----------|----|----|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 循環水移送装置 | 循環水調整板の設定の確認 | ・ 人槽表示に合っていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環水調整板を人槽表示に合わせる。  <p>図 循環水移送装置</p> | | | | | | | | | |
| | 稼働状況の確認および循環水量の測定 計量シリンダーで水量を測定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 常に循環していない。 ・ 循環水量が下表より極端に少ない、または多い。 <p>表 循環水量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人槽</th> <th>14</th> <th>20 21</th> <th>25</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水量 [L/min]</td> <td>2.9 ~ 3.9</td> <td>4.2 ~ 5.8</td> <td>5.2 ~ 6.9</td> <td>6.3 ~ 8.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>設計値: 1 日当たりの循環水量が日平均汚水量の 1.5 ~ 2.0 倍。</p> | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | 循環水量 [L/min] | 2.9 ~ 3.9 | 4.2 ~ 5.8 | 5.2 ~ 6.9 | 6.3 ~ 8.3 |
| 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | | | | | | | | |
| 循環水量 [L/min] | 2.9 ~ 3.9 | 4.2 ~ 5.8 | 5.2 ~ 6.9 | 6.3 ~ 8.3 | | | | | | | | |

流入水量が著しく多い場合

各人槽の設定流入水量は下表のようになっています。

表 設定流入汚水量

| 人槽 | 14 | 20 | 21 | 25 | 30 |
|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 設定水量 [m ³ /日] | 2.8 | 4.0 | 4.2 | 5.0 | 6.0 |

流入水量が多く、流量調整部がオーバーフローしている場合は間欠定量移送装置を以下のサイクルに調整してください。(循環水量は各人槽の設定値のままにしてください)

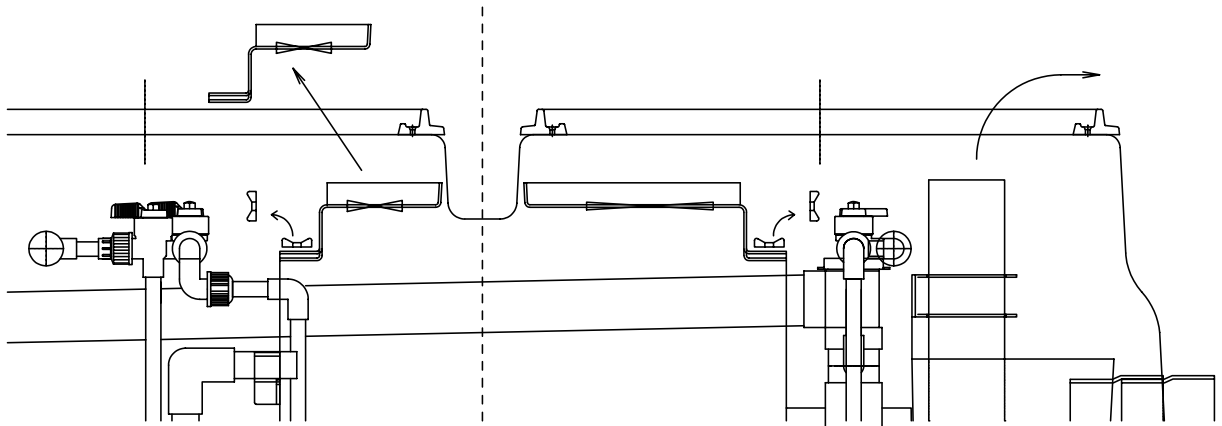
表 流入水量とサイクル時間

| 流入水量 [m ³ /日] | サイクル時間 [秒/cycle] |
|--------------------------|------------------|
| 3.0 | 27 |
| 3.5 | 22 |
| 4.0 | 18 |
| 4.5 | 16 |
| 5.0 | 14 |
| 5.5 | 13 |
| 6.0 | 11 |

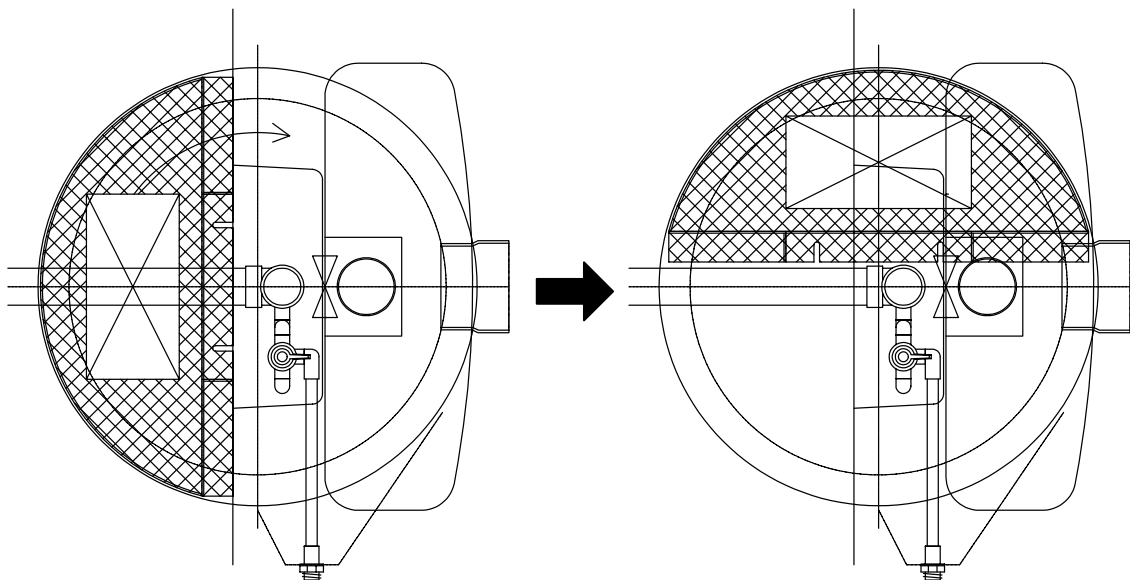
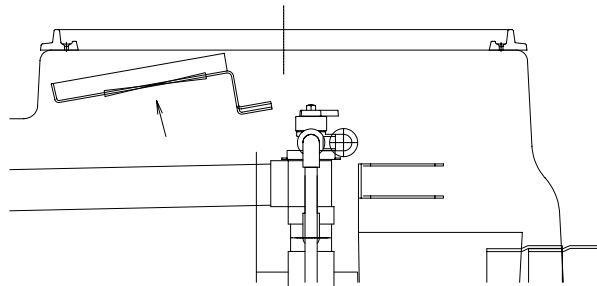
担体流出防止枠の取り外し方法

チョウナット、薬剤筒を取り外す

流入側の担体流出防止枠を槽外へ取り出す



放流側の担体流出防止枠を持ち上げ、回転させて作業スペースを確保する



【注意】

- 取り外したチョウナットを槽内に落とさないようにすること
- 担体流出防止枠を取り外したら、作業後に必ず取り付けること

(4) 担体流動槽

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 |
|-------|------------------------|---|--|
| 散気の状態 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 気泡が均一に上がっていない。 正常な状態：気泡が均一に上がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 散気用バルブを調整して均等吹きにする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 気泡が部分的にしか、または全く上がっていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 散気装置を点検する。 片方ずつエアを吹いて、散気管の目詰まりを解消する。 ・ 改善されない場合は散気装置を洗浄する。 <p>【注意】 水圧による洗浄をおこなってはならない</p> <p>散気管の取出し方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ブロウを停止させる 2.散気管側の流出防止枠を取外す 3.分配バルブ下のエルボユニオンを緩め、エア配管をはずす 4.散気管を槽外へ取出す 5.ブラシ等で洗浄をおこなう 6.散気管を取付け、ブロウの電源を入れる <p>洗浄をおこなっても解消されない場合は、散気管を交換する</p> |
| 発泡の有無 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 著しく発泡している。 ・ 泡が仕切壁を越えている。 使用開始時、洗剤が多い、散気風量が多い、気温水温の差が大きい場合に発生する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消泡剤を投入する。 ・ 洗剤の使用量が多い場合は使用者に適正量使用するようにお願いする。 |
| DOの測定 | DO計を用いて、水面下およそ10cmにて測定 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1.0[mg/L]以下 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 散気状況の確認 ・ ブロウの点検 ・ 移送水量、循環水量の設定確認 ・ 使用人員の確認 |
| 水位の上昇 | 水準目安線から水位までの距離を確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水位の上昇が水準目安線から50mmを超えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 担体流動槽と生物ろ過槽の移流口を点検する。異物などで詰まっている場合はブラシ等で洗浄する。 ・ 改善されない場合は生物ろ過槽を点検する。 |

(5) 生物ろ過槽

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|-----------|----------|----|----|----|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| バルブの設定 | 逆洗用バルブの設定の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 各人槽の設定に合っていない。 <table border="1"> <tr> <td>人槽</td> <td>14</td> <td>20 21</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>開度</td> <td>B側 60%</td> <td>B側 75%</td> <td>B側 75%</td> <td>B側 75%</td> </tr> </table> | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | 開度 | B側 60% | B側 75% | B側 75% | B側 75% | <ul style="list-style-type: none"> 逆洗用バルブを各人槽設定に合わせる。 注意: 異常時以外は位置を動かさない  <p>図 逆洗用バルブ</p> |
| 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | | | | | | | | | |
| 開度 | B側 60% | B側 75% | B側 75% | B側 75% | | | | | | | | | |
| スカムの有無 | 目視 | <ul style="list-style-type: none"> 多量のスカムがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 手動逆洗をおこない、スカムを汚泥貯留槽へ移送する。 | | | | | | | | | | |
| 水位の上昇 | 水位が水準目安線の位置にあるか確認 | <ul style="list-style-type: none"> 生物ろ過槽の水位が、移流管兼清掃口の水位より高くなっている。 移流管兼清掃口を乗り越えて、消毒槽へ移流している。 | <ul style="list-style-type: none"> ろ過担体を点検する。 1. 逆洗用バルブを A 側 100%にして手動逆洗をおこない、ろ過担体の閉塞を解消する。 2. バルブを元に戻し、逆洗水を移送する。 3. 移送開始から逆洗水が薄くなるまでの時間を測定する。 4. プロウタイマの設定を確認し、逆洗時間を 3. にて測定した時間に変更する。 <p>閉塞が解消しない場合は、6~8のステンレス製パイプでろ過担体を攪拌しながら逆洗作業をする。</p> | | | | | | | | | | |
| 逆洗の状況 | 手動逆洗および目視 | <ul style="list-style-type: none"> 気泡が均一に上がっていない。 気泡が部分的にしか、または全く上がっていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ブロウを点検する。 逆洗装置を洗浄する。 1. 逆洗用バルブを A 側へ 100%にする。 2. ブロウの逆洗用配管を外し、水道水にて圧水洗浄をおこなう。 | | | | | | | | | | |
| 汚泥移送エアリフトポンプ | 汚泥移送量および汚泥移送時間の測定 手動逆洗をおこない、水量を測定する。 移送開始から逆洗水が薄くなるまでの時間を測定する。 (通常 2 分程度) | <ul style="list-style-type: none"> 逆洗汚泥が移送されない。 汚泥移送水量が設計値より少ない、または多い。 設計値: 50L/min 程度 逆洗開始より 5 分経過しても濃度が薄くならない。 | <ul style="list-style-type: none"> エアリフトポンプを洗浄する。 1. 縦配管のキャップを外す。 2. 清掃口からブラシ等で洗浄する。 汚泥移送管を洗浄する。 1. 先端および清掃口からブラシ等で洗浄する。 ブロウタイマの設定を確認し、逆洗時間を 10 分間に変更する。 | | | | | | | | | | |

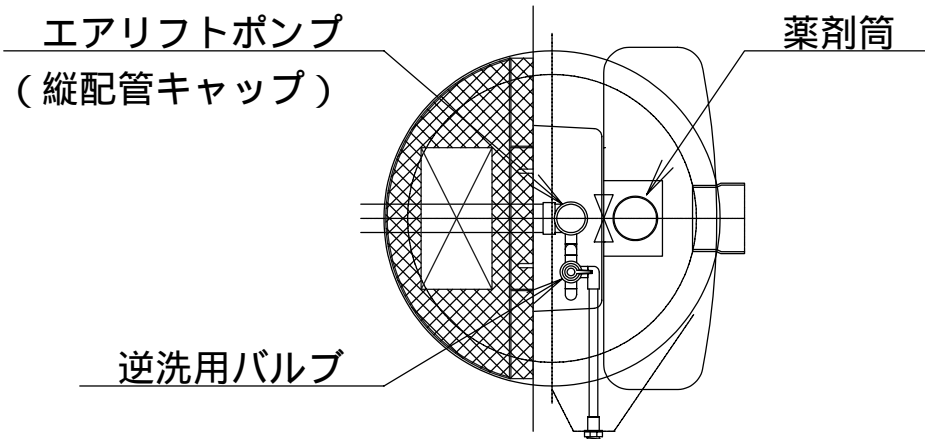


図 逆洗バルブ・エアリフトポンプ配置図

(6) 移流管兼清掃口

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 |
|---------|--------------------------------------|--|--|
| 透視度の測定 | 透視度計にて測定 | ・透視度が20cm未満 | ・生物処理が正常におこなわれていないので、担体流動槽の保守作業をおこなう。 |
| pHの測定 | pH計にて測定 | ・5.8～8.6の範囲外 | ・循環水量を確認する。 ・使用者に特殊な薬品類を多量に流していないか確認し、流している場合は使用者に改善を促す。 |
| 窒素の測定 | 簡易測定器にて測定 (アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素) | ・アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素および硝酸性窒素の総和を1.3倍した値が、20mg/Lを超えている。 | ・移送水量と循環水量が標準(移送比4.0Q、循環比1.5Q)であることを確認する。 ・アンモニア性窒素が多い場合は硝化が十分に進んでいないと考えられるので、移送比3.5Q、循環比1.0Qにする。 ・硝酸性窒素が多い場合は脱窒が十分に進んでいないと考えられるので、移送比5.5Q、循環比3.0Qにする。 |
| スカムの有無 | 目視 | ・多量のスカムがある。 | ・スカムをひしゃく等ですくい、汚泥濃縮貯留部へ移す。 |
| 堆積汚泥の状況 | 汚泥堆積厚測定器具の差し込み | ・汚泥が堆積している。 | ・ブロワのタイマ設定および汚泥移送エアリフトポンプの動作を確認する。 ・手動逆洗をおこない、堆積汚泥を汚泥貯留槽へ移送する。 ・逆洗水が薄くならない場合は汚泥貯留槽および予備ろ過槽の堆積汚泥の状況を確認し、必要であれば清掃する。 |
| ミジンコの発生 | 目視 | ・ミジンコが大量に発生している。 | ・0.3%程度の塩素水を少量散布する。 |
| 消毒槽への移流 | 目視 | ・移流口に汚泥や異物が付着している。 | ・汚泥や異物を取り除く。 |

(7) 消毒槽

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 |
|---|------|-------------------------------|--|
| 薬剤筒の取付状態 | 目視 | ・薬剤筒が傾いている。 | ・正常な位置に取り付け、処理水と消毒剤が接触するようにする。 |
| 消毒剤または塩素剤の有無 | 目視 | ・消毒剤の減る速度が速い。 ・消毒剤が減っていない。 | ・消毒槽内の残留塩素濃度を測定し、必要であれば回転式スリットで薬剤と移流水の接触を調整する。 |
| 槽内沈殿物の有無 | 目視 | ・沈殿物があり、かつ放流水に濁りが認められる。 | ・清掃する。 |
| <p>消毒剤は残量の多少に関わらず、必ず補充する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒剤補充時に、誤って槽内に落とさないように慎重におこなう。 ・消毒剤が消毒槽以外の槽で溶解すると、浄化槽内の微生物が死滅して処理性能が悪化する。 | | | |

(8) ブロワ

| 点検項目 | 点検方法 | 異常な状態 | 対策 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|---|--|----|----------|----|----|------|----|-----|--|--|------|--------------------------------|--|--|--|-------------------|
| 運転状況 | 目視 | ・ 運転が停止している。 | ・ 電源を確認する。 ・ ダイアフラムが破損している場合は修理する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配管接続部 | 空気漏れの音を確認 | ・ 空気が漏れている。 | ・ 修理する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 音、振動 | 音や振動を確認 | ・ 異常な音、振動がある。 | ・ ブロワの足とコンクリート基礎間の隙間が原因であれば、4本の足が確実に接地するように改善する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| エアフィルター | フタを外して上部のフィルターを確認 | ・ 汚れたり、目詰まりしている。 | ・ 清掃または交換する。 (定期的な交換を推奨) | | | | | | | | | | | | | | | |
| タイマ | タイマを確認 | ・ 現在時刻が合っていない ・ 逆洗時間が下表に合っていない。 表 逆洗時間、設定時刻 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <td>人槽</td> <td>14</td> <td>20 21</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>逆洗時間</td> <td>5分</td> <td colspan="3">10分</td> </tr> <tr> <td>設定時刻</td> <td colspan="4">1回目 : AM 2:00 2回目 : AM 4:00</td> </tr> </table> | 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | 逆洗時間 | 5分 | 10分 | | | 設定時刻 | 1回目 : AM 2:00 2回目 : AM 4:00 | | | | ・ 現在時刻、逆洗時間を設定する。 |
| 人槽 | 14 | 20 21 | 25 | 30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 逆洗時間 | 5分 | 10分 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設定時刻 | 1回目 : AM 2:00 2回目 : AM 4:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ダイアフラムは定期的(使用開始から12ヶ月ごと)に交換する。
 エアフィルターは定期的に清掃または交換する。
 タイマのメモリ保持のための電池の寿命は無通電状態で2年となっている。

タイマーバルブユニットの設定方法

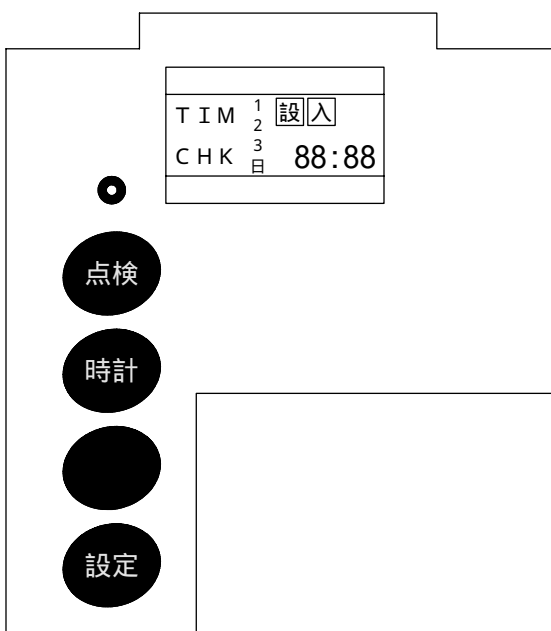


図 パネル拡大図

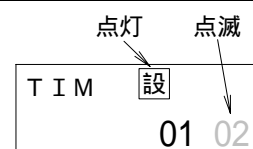
現在時刻の設定方法

- 『時計』ボタンを押し、現在時刻設定モードに切替えます。
『』ボタンを押し、現在時刻(時)を設定します。
- 『設定』ボタンを押し、現在時刻(時)を確定します。
『』ボタンを押し、現在時刻(分)を設定します。
- 『設定』ボタンを押し、現在時刻(分)を確定します。
モニタ表示の全桁が点滅するので、再度設定ボタンを押し、自動運転モードに切替えます。
時計の「 : 」が点滅します。
以上で現在時刻の設定は終了です。

逆洗タイマーの設定方法

1. 『設定』ボタンを長押しして、逆洗動作設定モードに切り替える。

(**設**マークが点灯し、「01 02」と表示され、右2桁が点滅します)

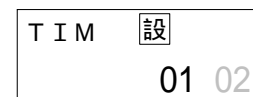


2. 『』ボタンを押し、1回目の逆洗時刻(2時)を設定します。

(0時から23時の間で、1時間刻みで設定できます)

『設定』ボタンを押し、1回目の逆洗時刻を確定します。

(点滅が点灯に変わります)



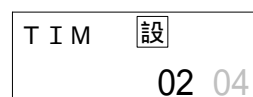
3. もう一度『設定』ボタンを押すと「02 04」と表示され、右2桁が点滅します。



4. 『』ボタンを押し、2回目の逆洗時刻(4時)を設定します。

『設定』ボタンを押し、2回目の逆洗時刻を確定します。

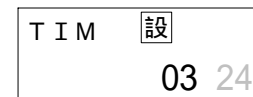
(点滅が点灯に変わります)



5. もう一度『設定』ボタンを押すと「03 24」と表示され、右2桁が点滅します。

『』ボタンで24を入力し、『設定』ボタンを押して終了を確定します。

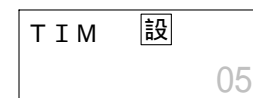
24入力が逆洗時刻設定の終了コマンドとなります。



6. 『設定』ボタンを押すと表示が右2桁のみに変わり、点滅します。

『』ボタンで逆洗時間を設定します。

『設定』ボタンを押し、逆洗時間を確定します。

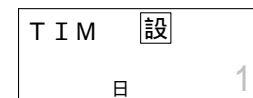


7. 『設定』ボタンを押すと表示が「日 1」に変わり、点滅します。

『』ボタンで繰り返し間隔を設定します。

(1:毎日、2:1日おき、3:2日おき)

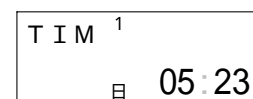
『設定』ボタンを押し、逆洗時間を確定します



8. もう一度『設定』ボタンを押すと、現在時刻になり自動運転モードに入ります。

時計の「 : 」が点滅します。

以上で逆洗タイマーの設定は終了です。



3. 清掃について

3 - 1. 清掃時期の目安

清掃は通常の使用状態において1年に1回以上とする。

ただし、1年未満においても以下のような状態になったときは清掃をおこなう。

- (1) 汚泥貯留槽、予備ろ過槽から多量の汚泥が流出したとき。
- (2) 汚泥貯留槽、予備ろ過槽のスカムおよび底部の堆積汚泥が著しく蓄積したとき。
- (3) 微生物に対して毒性を有する物質の流入が認められ、生物処理が困難と認められるとき。

3 - 2. 清掃の手順

(1) 前作業

手動逆洗をおこなう。生物ろ過槽が閉塞している場合は、閉塞を解除する。

ブロワの電源を切り、運転を停止する。

流入管、放流管、固液分離部、移流管兼清掃口の付着物を除去する。

移流管兼清掃口にスカムが多量にある場合は、ひしゃく等により汚泥濃縮貯留部へ移す。

(2) 汚泥貯留槽

[汚泥、スカム等を**全量**引き抜く]

汚泥貯留槽上部のスカムをサクシオンホースで引き抜く。

サクシオンホースを槽底部に挿入し、槽の内壁に付着している汚泥を圧力水等で洗浄しながら槽底部の汚泥を全量引き抜く。

(3) 予備ろ過槽

[汚泥、スカム等を**適正量**引き抜く]

サクシオンホースを槽内に入れ、スカムを引き抜く。

ろ材押さえ面に堆積している汚泥等をろ材が見えるまで引き抜く。

移流管兼清掃口にサクシオンホースを底部まで挿入し、ろ材の中および槽の内壁に付着している汚泥を圧力水等で洗浄しながら槽底部の汚泥を全量引き抜く。

注意 予備ろ過槽は浄化槽の使用状況により引き抜きの有無を判断し、引き抜く場合は適正量引き抜く。その際、必ずスカムから先に引き抜く。槽底部を先に引き抜くと水位が下がってスカムやろ材押さえ面に堆積している汚泥等がろ材の中へ入り、ろ材が閉塞するおそれがある。

(4) 後作業

清掃が終わったら、槽内に規定水位(最も低い水準目安線)まで水を張る。水張り後、ブロワの運転を開始する。

4.アフターサービスについて

4 - 1. 保証期間と保証の範囲

(1) アフターサービス

ご使用中に万一異常な状態が発生した場合は、ご契約の維持管理店、または弊社営業所へご連絡ください。

(2) 保証について

保障期間は開始日から起算して、本体が3年、駆動部が1年です。保証書の記載内容通りに故障について修理致しますので、詳しくは保証書をご覧ください。また、保証書に「お客様名、お取扱店名、据付日」を記入し、大切に保管してください。

保証期間経過後の修理についても、お気軽にご相談ください。

保証期間内に取扱説明書の注意書きに従って、正常な使用状態にて故障した場合には、本書記載内容に基づき無償修理をおこなうことをお約束するものです。ただし、保証は「機能」を保証し、「性能」を保証するものではありません。

保証対象品

槽本体：本体の外殻、仕切板

FRP製の槽本体の耐用年数は30年程度となります。

浄化槽以外に転用をする場合は、保証の対象外となります。

駆動部（ブロワ、送風装置、ポンプ、制御盤等）

弊社指定品以外のものについては保証の対象外となります。

その他部品（開口部フタ・枠、配管部材、嵩上げ材、ろ材等）

開口部のフタ等は使用上に発生した外観上の傷・錆等は保証致しません。

あくまでもフタの機能（耐荷重強度）について保証するものです。

消耗部品（ダイヤフラム、間欠定量移送装置の逆止弁、パッキン類、消毒剤、電池等）は対象外となります。

(3) 部品の保有年数

部品の最低保有年数は5年です。5年以上過ぎると部品の供給ができなくなり、部品の一式交換が必要となる場合がありますのでご了承願います。

詳しくは維持管理店にご相談ください。

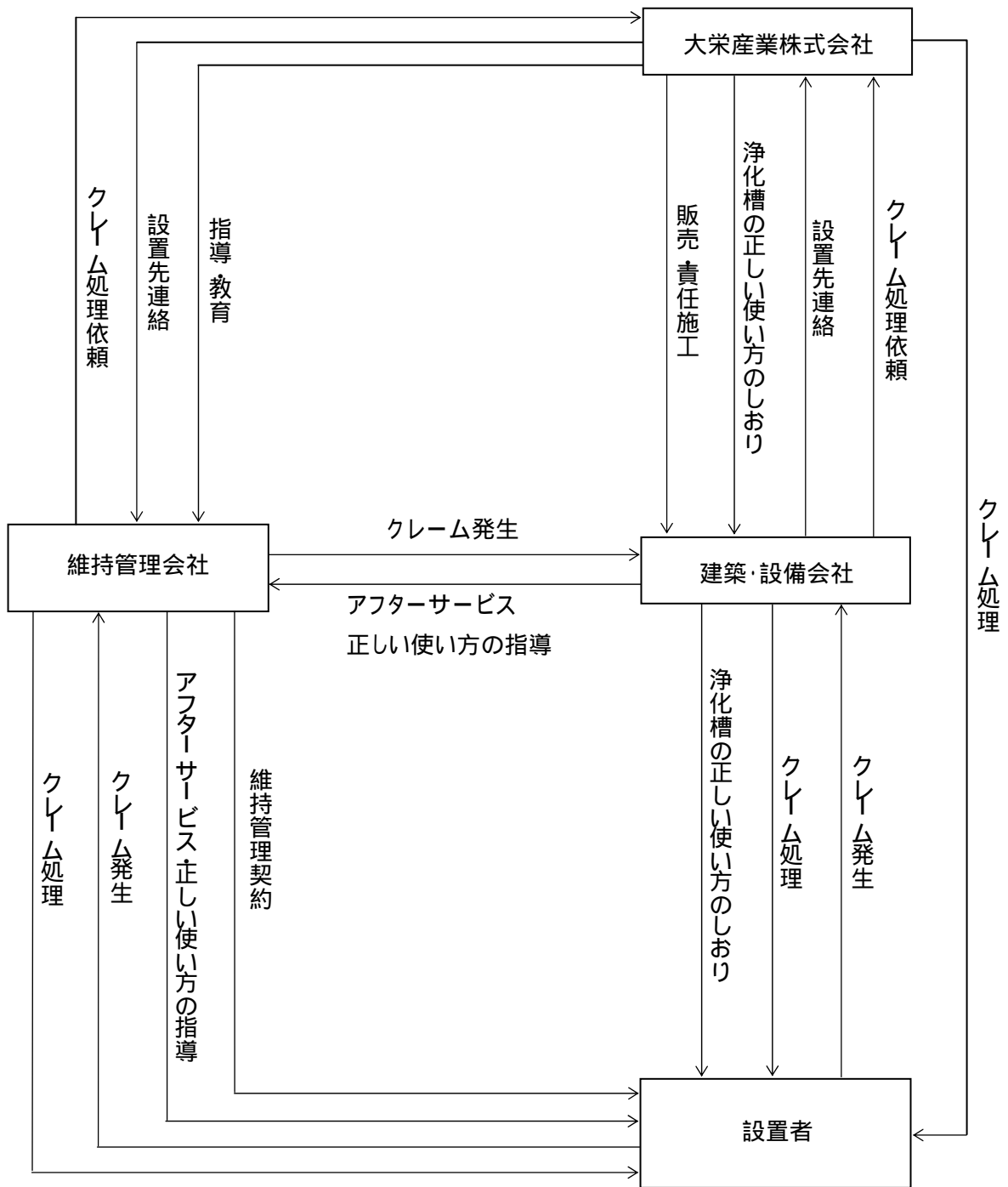
(4) 浄化槽の取扱説明書等を紛失・破損された場合は、弊社にご連絡ください。

直ちにお送りします。

(5) その他不明な点は、弊社までお問い合わせください。

「浄化槽法」により浄化槽の維持管理（保守点検・清掃・検査）はお客様に義務付けられています。これらの費用はすべてお客様のご負担となります。

4 - 2 . 維持管理体制



使用開始直前保守点検チェックリスト

| | | | |
|---------|-----------------------------|---------|---|
| 作 成 | | 氏 名 | |
| 保守点検日時 | 年 月 日 AM・PM(:) | 天気・気温 | / |
| 施設又は管理者 | (名称・氏名) (住所) TEL: - - | | |
| 設置年月日 | 年 月 日 | 使用開始年月日 | 年 月 日 |
| 処理対象人員 | 人 | 実使用人員 | 人 |
| 計画汚水量 | m ³ /日 | 実流入汚水量 | m ³ /日 |
| 処理方式 | 固液分離型流量調整付担体流動生物ろ過循環方式 | 処理水質 | BOD 20mg/L 以下、SS 20mg/L 以下 T-N 20mg/L 以下 |
| 浄化槽製造業者 | 大栄産業株式会社 | 型 式 | FCS (人槽)型 |
| 施工業者 | (名称・氏名) (住所) TEL: - - | | |
| 保守点検業者 | (名称・氏名) (住所) TEL: - - | | |

| チェック項目 | 細 目 | チェック |
|-------------|--|------|
| 建築物の用途の確認 | ・ 建築物の用途に変更がないか | |
| | ・ 浄化槽の容量(人槽)、構造は適切か | |
| | ・ 建築物の用途が多量の油脂類を排出する場合、油脂類を排除する装置が設けられているか | |
| 浄化槽周辺の状況の確認 | ・ 日常の保守点検、清掃作業が支障なくおこなえるか | |
| | ・ 流入、放流桝および本槽マンホールから雨水の流入のおそれはないか | |
| | ・ 破損、変形、漏水等はないか | |
| 浄化槽内の状況の確認 | ・ マンホールを開け、高上げ高さや槽内の水面と地表面との距離を確認する | |
| | ・ 水準目安線、流入管底、放流管底等各槽内の水位の関係を調べ、槽の水平、高さが正常に保持されているか | |
| | ・ 槽内の観察、装置の操作、試料の採取、薬剤の補充等に支障がないか | |
| | ・ 槽内に土砂等が堆積していないか | |
| ブロワの稼働状況の確認 | ・ ブロワおよび空気配管に異常な振動、騒音、発熱がないか | |
| | ・ ブロワの送風量は規定量あるか | |
| | ・ ブロワの吐出口は適切な配管に接続されているか | |
| | ・ 現在時刻、逆洗入時刻、逆洗切時刻は合っているか | |
| 散気状況の確認 | ・ 気泡はほぼ均等に吹き上げられているか | |
| | ・ 散気用バルブを操作してどの程度の調整が可能か確認する | |
| | ・ 上部配管の継手等に石鹸水を吹き掛ける等により空気漏れの有無を確認する | |
| 移送装置の機能の確認 | ・ 間欠定量移送装置、循環水移送装置、汚泥移送管にゴミ、土砂、こぼしモルタル、木クズ等が付着または堆積していないか | |
| | ・ 移送用バルブは所定の目盛位置になっているか | |
| | ・ 循環水調整板は所定の目盛位置になっているか | |
| | ・ 移送用バルブ、循環水調整板の各標準目盛位置での移送サイクル時間(s/サイクル)、循環水量(L/min)を測定する | |
| | ・ 移送管の流出部の管底と移送先の水面との落差を測定し、移送先の水位が上昇しても容易に短絡しないことを確認する | |

| チェック項目 | 細 目 | チェック |
|------------------------|--|------|
| 逆洗状況の確認 | ・ 手動逆洗をおこない、エアリフトポンプの稼働状況と気泡の発生状況を確認する | |
| | ・ 逆洗用バルブは所定の目盛位置になっているか | |
| | ・ 逆洗用バルブの各標準目盛位置での移送水量(L/min)を測定する | |
| 堆積汚泥および処理水槽浮上物の移送機能の確認 | ・ ひしゃくや自給式ポンプでスカムや堆積汚泥を容易かつ安全に移送できるかどうか | |
| 流入・放流管渠の水の流れ方の状況確認 | ・ 生活排水以外の特殊な排水および雨水等が流入していないか | |
| | ・ 施工完了後、管渠内の清掃がおこなわれているか(ゴミ、こぼしモルタル、木クズ、ビニル袋等はないか)どうか | |
| | ・ 建物内へ臭気が逆流しにくいようになっているか | |
| | ・ 流入管渠の柵はインバートが切っているか | |
| | ・ 放流落差を確認する | |
| | ・ 最も遠い点検口から水を流し、管渠内の流れ方を確認する | |
| | [流入・放流管渠の途中にポンプ槽が設けられている場合] ・ レベルスイッチの管理性およびポンプの能力を確認する | |
| 臭気対策の確認 | [臭突が設けられている場合] ・ その施工状況、臭突の開口部の位置を確認する | |
| | [臭突が設けられていない場合] ・ 散気後の排出空気の流れ方向を確認する | |
| | | |
| 浄化槽上部の利用状況の確認 | ・ 浄化槽上部が保守点検、清掃に支障がないよう開放されているかどうか | |
| | [駐車場の場合] ・ 浄化槽が車輛荷重を受けない施工仕様で、適性に工事がおこなわれているかどうか | |
| | [上屋付きの場合] ・ 上部構造物の荷重が浄化槽にかからず、また浄化槽が車輛を含めて上部荷重を受けない施工仕様で、適正に工事がおこなわれているかどうか確認する | |
| | ・ 上屋内の臭気対策は、適切におこなわれているかどうか | |
| | [浄化槽をピット内に設置している場合] ・ ピット内の作業空間の広さ、雨水や土砂の流入の可能性、ピット内の排水口の有無等管理上の支障の有無を確認する。 | |
| | | |
| シーディング剤添加の確認 | ・ 生物処理機能の馴養期間の短縮化を図るため、シーディング剤を添加するかどうかについて検討する | |
| 運転開始 | ・ 浄化槽のピーク水量を流入させ、各単位装置内および単位装置間の水の流れを確認する | |
| | ・ 放流水と消毒剤との接触状況を確認する | |
| 管理者への説明 | ・ 正しい使い方(使用の準則)について説明する | |
| | ・ 法的義務について説明する | |

所 見

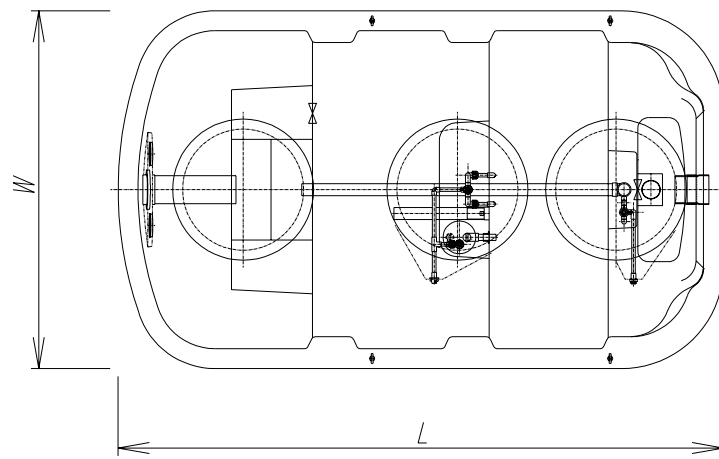
このチェックリストは3年間の保有が必要です。

保守点検記録表

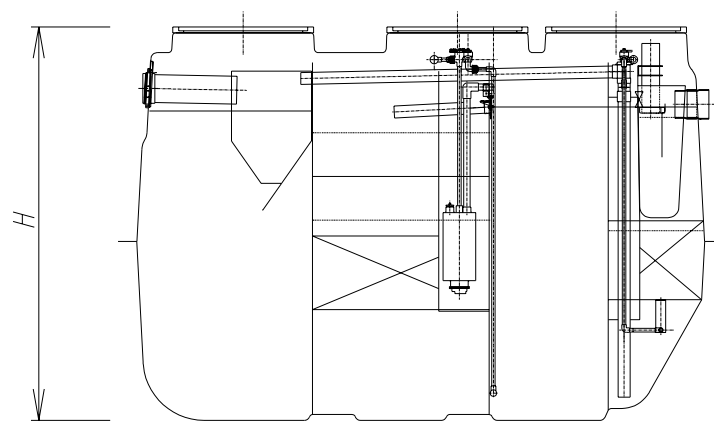
保守点検の日時： 年 月 日 AM・PM(:)

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|---|----------------------|---------------------|-----------|-----------------------|-----------|----------------------------------|------|--|
| 浄化槽の使用者名： | | | | 住所： | | | | | | | |
| 浄化槽の管理者名： | | | | 巡回用件：定期・契約・要請・その他() | | | | | | | |
| メーカー名・型式名：大栄産業株式会社・FCS (人槽)型 | | | | | | 処理対象人員： 人 | | | | | |
| 処理方式：固液分離型流量調整付担体流動生物ろ過循環方式 | | | | | | 実使用人員： 人 | | | | | |
| 天候： | | 気温： | | 異常な臭気：無・有 | | 異常な騒音：無・有 | | 異常な振動：無・有 | | | |
| 検 水 | 外 観 | 臭 気 | 水 温 | DO | 透視度 | pH | アモニア性窒素 | 亜硝酸性窒素 | 硝酸性窒素 | 残留塩素 | |
| 汚泥貯留槽 | | 無・微・有 | | | | | | | | | |
| 予備ろ過槽 | | 無・微・有 | | | | | | | | | |
| 担体流動槽 | | 無・微・有 | | mg/L | | | | | | | |
| 生物ろ過槽 | | 無・微・有 | | | cm | | mg/L | mg/L | mg/L | | |
| 消毒槽流出水 | | | | | | | | | | mg/L | |
| その他の分析結果 | | | | | | | | | | | |
| 注) 1. 外観：予備ろ過槽以降ではミジンコの有無も確認すること。 2. 臭気：有の場合はその特徴を記入する。(a:下水臭 b:し尿臭 c:腐敗臭 d:カビ臭 e:その他) | | | | | | | | | | | |
| 点検箇所 | | 点検すべき状況 | | | | | | | | | |
| 流入管渠 | | 点検升のフタの密閉状況(良・不良) | | | 滞水(無・有) | | 漏水(無・有) | | | | |
| 放流管渠 | | 異物等の堆積または付着(無・有) | | | 異物等の堆積または付着(無・有) | | 滞水(無・有) 漏水(無・有) | | | | |
| 汚泥貯留槽 | | 異常な水位の上昇(無・有(mm)) | | | 蚊・蠅等の発生状況(無・有) | | スカムの生成状況(無・有(mm)) | | 異物の流入状況(無・有) 堆積汚泥の生成状況(無・有(mm)) | | |
| 予備ろ過槽 | | 異常な水位の上昇(無・有(mm)) | | | 蚊・蠅等の発生状況(無・有) | | スカムの生成状況(無・有(mm)) | | 異物の流入状況(無・有) 堆積汚泥の生成状況(無・有(mm)) | | |
| 担体流動槽 | | ばっ気攪拌の状況(良・不良) | | | 発泡の状況(無・有) | | 水位の異常上昇(無・有(mm 上昇)) | | | | |
| 間欠定量移送装置 | | 間欠定量移送装置揚水(無・有(移送サイクル時間 s/サイクル)) | | | 生物膜等の付着(無・有) | | | | | | |
| 循環水移送装置 | | 循環水量(無・有(L/min)) | | | 生物膜等の付着(無・有) | | | | | | |
| 生物ろ過槽 | | スカムの生成状況(無・有(mm)) | | | 堆積汚泥の生成状況(無・有(mm)) | | 汚泥移送水量(無・有(L/min)) | | | | |
| 消毒槽 | | 処理水との接触状況(良・不良) | | | 沈殿物の生成状況(無・有) | | 消毒剤の名称： 残留量： 錠、補給量： 錠 | | | | |
| ブ口ワ | | 稼働状況(良・不良) | | | | | | | | | |
| 定期清掃 | | 予定年月(年 月) | | | | | | | | | |
| 上水の使用量 | | 水道の積算流量計の有無(無・有：メーターの値 m ³) | | | | | | | | | |
| 点検の結果および措置 | 流入管渠及び放流管渠 | | 清掃(要：流入管渠・放流管渠) | | | | | | | | |
| | 汚泥貯留槽・予備ろ過槽 | | 清掃(要：間欠定量移送装置、循環水移送装置) | | | | | | | | |
| | 担体流動槽 | | 清掃(要：散気管、流動担体流出防止スリット) ばっ気量の調整(要：未実施・実施) | | | | | | | | |
| | 生物ろ過槽 | | 清掃(要：逆洗管、エアリフトポンプ) スカム・堆積汚泥の移送(要：未実施・実施) 汚泥移送量の調整(要：未実施・実施(L/min)) | | | | | | | | |
| | 消毒槽 | | 清掃(要) | | | | | | | | |
| | ブ口ワ | | エアフィルターの洗浄(未実施・実施)、ダイヤフラムの交換(未実施・実施) | | | | | | | | |
| | その他 | | 修理(要：具体的な内容) 改善工事(要：具体的な内容) | | | | | | | | |
| 所見および管理者への連絡事項 | | | | | | | | | | | |

平面図



断面図



仕様・寸法表

| 項目 | | 単位 | FCS 14 | FCS 20・21 | FCS 25 | FCS 30 |
|---------|-----|----------------|--------|-----------|--------|--------|
| 全長 (L) | | mm | 3050 | 3740 | 3920 | 4320 |
| 全巾 (W) | | mm | 1800 | 2100 | 2250 | 2400 |
| 全高 (H) | | mm | 1980 | | 2080 | |
| 流入管底 | | mm | 380 | | | |
| 放流管底 | | mm | 460 | | | |
| 流入・放流管径 | | mm | 125 | | | |
| 汚泥貯留槽 | | m ³ | 1.881 | 2.811 | 3.363 | 4.002 |
| 予備ろ過槽 | | m ³ | 1.642 | 2.464 | 2.927 | 3.505 |
| 担体流動槽 | | m ³ | 1.417 | 2.126 | 2.527 | 3.059 |
| 生物ろ過槽 | | m ³ | 0.741 | 1.004 | 1.310 | 1.554 |
| 消毒槽 | | m ³ | 0.063 | 0.063 | 0.063 | 0.063 |
| 総容量 | | m ³ | 5.744 | 8.468 | 10.190 | 12.183 |
| ブロウ | 散気 | L/min | 120 | 200 | 200 | 250 |
| | 逆洗 | L/min | 120 | 200 | 200 | 250 |
| マンホール | 450 | 個 | - | 2 | 1 | 1 |
| | 600 | 個 | 3 | 2 | 3 | 3 |

| | | |
|--------|-----------|--|
| 本 社 | 〒470-2403 | 愛知県知多郡美浜町大字北方字西側 85-1 TEL:0569-82-0338 FAX:0569-82-2114 |
| 北海道営業所 | 〒065-0022 | 北海道札幌市東区北 22 条東 3 丁目 1-35 ハイテクビル・さっぽろ TEL:011-748-3200 FAX:011-748-3221 |
| 仙台営業所 | 〒983-0038 | 宮城県仙台市宮城野区新田 1-3-52 TEL:022-239-9001 FAX:022-239-9002 |
| 埼玉営業所 | 〒346-0016 | 埼玉県久喜市東 2-17-2 八代ビル 2F TEL:0480-21-8231 FAX:0480-21-8337 |
| 東京営業所 | 〒116-0014 | 東京都荒川区東日暮里5-34-1 OAK・BLD(オークビル)503 TEL:03-3803-7531 FAX:03-3803-7532 |
| 静岡営業所 | 〒417-0801 | 静岡県富士市大淵 2897-5 イデキョウビル内 TEL:0545-35-5783 FAX:0545-35-5784 |
| 豊橋出張所 | 〒441-8122 | 愛知県豊橋市天伯町六ツ美 77-1 TEL:0532-48-8029 FAX:0532-37-7372 |
| 大阪営業所 | 〒569-0034 | 大阪府高槻市大塚町 1-15-7 サニーコート西口 3F-C 号 TEL:0726-73-3202 FAX:0726-73-9240 |
| 岡山出張所 | 〒702-8002 | 岡山県岡山市桑野 714-1-5 TEL:086-277-9707 FAX:086-276-0453 |
| 広島営業所 | 〒731-5136 | 広島県広島市佐伯区楽々園 2-1-38 藤井ビル 404 TEL:082-923-9988 FAX:082-923-9987 |
| 福岡営業所 | 〒814-0153 | 福岡県福岡市城南区樋井川 3-19-1 TEL:092-552-4904 FAX:092-511-8122 |
| 大分出張所 | 〒879-7152 | 大分県豊後大野市三重町百枝字長迫 1953 TEL:0974-22-8218 FAX:0974-22-8489 |

DAIE

大栄産業株式会社

URL <http://www.daie-industry.co.jp>
E-mail honsya@daie-industry.co.jp
商品やサービスに対するご意見、ご要望をお聞かせください。